



いろいろで燃やす木って山から切ってきたの？



そうよ。山がない家は、^{やしき}屋敷の木を切ったり、^{まき}薪を買ったりした。川や海の^{りゅうぼく}流木も集めて燃し木にした。山を持ってるとお金になったんだよ。



いつ頃まで木を^{ねんりょう}燃料にしたの？



そうだな、家を建て替える前は、薪で^{ふうろ}風呂を^た焚いてたんだよ。新築してプロパンを使うようになったんだ。



今のエネルギーは電気・ガス・石油だな。



木を切るのってたいへんそう。



今はチェーンソーがあるが、むかしはのこぎりで切る。冬になると、^{まきやま}薪山といって、山へ切りに行くんだ。木を薪の長さに切って、男はてんびん、女はしょいばしごで担いでおろすんだ。



まきひきのこぎり



しょいばしご
左は女性用、右は男性用



てんびん



いっぱい切ったら、はげ山になっちゃうんじゃないの？



大丈夫。切り株^{かぶ}からまた芽^めが出てくるんだ。その芽が10年もたてば大きく育って、また切れるようになるんだ。切らないで放っとくと、木が年とっちまって、切り株から芽を吹かなくなっちゃうんだ。だから定期的に切ってやらないといけないんだよ。



今は手入れされないから山が荒れてるもんな。それに薪山やった所は、眺^{なが}めが良いから、春に子どもたちが連れだってお花見に行くんだよ。小屋を立てて中で寝泊まりして、よその地域の小屋^{しゅうげき}へ襲撃に行ったりして遊んだんだよ。



今は庭の木を切ったら短くして燃えるゴミに出さなきゃいけないけどさ、昔は燃料になるし、金にもなったんだから、考えみればただゴミにするのはもったいないことだな。

* お花見

市内では4月3日の月遅れのひなまつりの日に、お花見といって、子どもたちが野山へ出て、ごちそうを食べてすごした。



まきわ 新割り 岡崎



のきした 積みあげられた薪 土屋

火



夏に父ちゃんとキャンプに行ったら、なかなか木が燃えないで苦労したけど、燃すのって意外とたいへんなんだね。



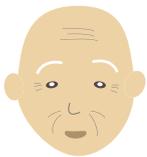
それは誠が下手なだけさ。慣れればどうってことはないんだよ。



あの日は雨が降って条件が悪かったからさ。



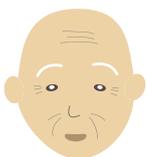
父ちゃんはライターで火をつけてたけど、大じいちゃんはおおマッチで焚き火してるよね。



その昔は火打石と火打鎌を打ち合わせて火をつけたと、おじいさんから聞いたよ。



火打石、知ってるよ。大じいちゃんはお正月に神様の前で火花を散らすもんね。畳が燃えるんじゃないかってドキドキしちゃう。あれは何のおまじないなの？



切り火^びといって、神様へお供え^{そな}ものをする前に、お清めするんだ。



ライター



マッチ



火打石と火打鎌



どうやって火を起こすの？



くわしくは知らんが、ホクチと
 いて、ガマの穂^ほだか綿^{わた}だかを
 蒸^むし焼きにした黒いものへ火花
 を落として、これを火種^{ひだね}にする。
 そこに付け木^{つけぎ}を当ててやると炎
 が立つんだ。



だるま市では、だるまを売るときに
 切り火を散らす

川崎市麻生区の不動院（麻生不動）



先端に硫黄^{いおう}を塗った付
 木^{つけぎ}（左）とホクチ（右）



火打石と火打鎌を打ち
 合わせて火花を散らす



ホクチの火種^{ひだね}を付木へ移す



付け木はおれも、硫黄^{いおう}と溶かして薄板^{うすいた}に塗^ぬってつくったこと
 があんだよ。付け木があれば、火種^{ひだね}さえあればマッチはいら
 ない。いろりや火鉢^{ひばち}は夜寝るときに、おき^{おき}へ灰^{はい}をかけてやる
 と灰の中で火種が生きている。それを明日の朝、灰からかき
 出して、付け木をくっつけてやれば火がついたんだ。

*おき 薪が燃えて赤くなった状態のこと。



ヘツイのおき火を火鉢へ入れたり、いろりのおきをこたつ
 へ移したり、むかしはなるべく火を絶^たやさずに使い回しをし
 たもんだね。そうしてマッチを節約^{せつやく}したんだね。



むかしの方は火を使うのが上手だったんだね。